交通安全ニュース

Monthly Report

2018年10月号

特集
交通コミュニケーション

最近、『あおり運転』などが大きな社会問題になっています。あおり運転は、絶対に許されない悪質な行為ですが、その行動には何らかの引き金があるかもしれません。今回は、あおり運転や事故に巻き込まれないための運転を、積極的に考えてみましょう。

1. こんな場面に遭遇したらあなたはどう感じますか

①高速道路で、追越車線を悠々と走っている前車に追いついたが、道を譲らないため追越しできず、後方からも車両が迫ってきた。

②一定の車間を保ち走行している直前へ割り込まれ、ブレーキを踏んだ。

③混雑した交差点で右折待ちで待機していたところ、信号の変わり目に、対向車線の直進車が無理に交差点へ進入して、交差点内で停車したため、右折できなかった。

④直進路で、前車が速度を落とし、のろのろしていると思ったら、ブレーキを踏みウインカーも出さずに左側に停車したので、ハンドル操作で避けた。

このような場面で、相手車にイライラを感じるドライバーは少なくないようです。
実際、ある調査では90．2%のドライバーが運転中にイライラしたことがあり、この内60%の人が、報復行動を考えたとのことです。(※)

※日本アンガーマネジメント協会「危険運転と怒りの関係性」に関する調査
https://response.jp/article/2018/06/01/310365.html
(2018/9/11閲覧)

▲後続車に迫られても追越し車線を走行し続ける車両

SOMPO ホールディングス
損保ジャパン日本興亜

2. 交通コミュニケーションでイライラを防止

先の調査からも、周囲のドライバーをイライラさせることは、事故を引き起こしたり、事故に巻き込まれたりするリスクを高める危険な行為といえます。

このような運転の多くは、無意識または突発的に行われているため行っているドライバーは、その危険に気付いていないと思われます。つまり自分と周囲のドライバーの安全意識に、ギャップが生じていることが考えられます。

そのため、イライラに起因する事故リスクを下げるには、あらゆるドライバーに、このギャップを埋める取組が求められます。そこで、ギャップを埋める取組みとして有望なのが、周囲のドライバーに配慮した「交通コミュニケーション」(※)の高い運転です。

※交通コミュニケーション：車、人、自転車など道路交通の参加者同士のコミュニケーション

3. 交通コミュニケーションの実践

次の3点に注意して、交通ミュニケーションの高い運転を実践しましょう。

◎交通ルールを守る

交通ルールは、すべてのドライバーが一律に守るべき安全の礎です。お互い安心して運転できるよう、ルールを必ず守りましょう。

◎「急」のつく操作は避ける

自分の「急な」運転操作で、相手を驚かせたり、急ハンドルや急ブレーキを強いるような迷惑行為は厳禁です。

◎早めに合図する

早目の分かりやすい合図は、相手の好感度を高める交通コミュニケーションの大切な手段です。早めの丁寧な合図を徹底しましょう。

▲合流時に順番を譲ってもらい、
ハザードランプを点けて感謝の意を伝える車両

SOMPO ホールディングス
損害保険ジャパン日本興亜株式会社
〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1
ホームページ http://www.sjnk.co.jp

お問い合わせ先
帝人エージェンシー株式会社 保険部
〒550-8587
大阪市西区土佐堀１－３－７
肥後橋シミズビル１６階
TEL 06-6459-5100 FAX 06-6459-6045
E-mail hoken@teijin.co.jp